

2 会の夏休みドリル

1 年生 こたえ

おうちのかたへ

お子さまが問題を解き終わったら、○つけをしてあげてください。
間違えやすいポイントやお子さまへの声かけのヒントを掲載しています。
間違えた問題はなぜ間違えたのか、確認をしましょう。

さんすう …… 1

せいかつ …… 16

こくご …… 28

国語の答えは反対側から始まります。

1 なんばんめ ①

2ページ

1 なんばんめ ①

1 きごうが かかれた カードが ならんで います。

ひだりから 5まいめの カードの きごうは です。

みぎから 4まいめの カードの きごうは です。

2 ひだりから 2まいめと みぎから 2まいの カードを あかで ぬりましょう。

えをみて、□にあてはまる かずやくだものの なまえを かきましょう。

1 バナナは、うえから だんめです。

したから だんめです。

2 したから 3だんめの くだものは です。

おうちのかたへ

「カードが7枚ある」など、物の個数を表す数を「集合数」というのに対し、「左から5枚目」など、順序や位置を表す数を「順序数」といいます。今回は、順序数について学び、物の位置を数を用いて表す方法を学習します。

①では、「5まいめ」「4まいめ」だけに注意がいき、「ひだりから」「みぎから」を考えるのを忘れてしまうことがあります。問題の図の「ひだり」「みぎ」を見ながら、右と左のどちらを基準にして数えているのかを一緒に確認するようにしましょう。**②**では、「なんまいめ」と「なんまい」の違いに気づけるとよいでしょう。「ひだりから 2まいめ」（順序数）は、1枚だけを指すのに対して、「みぎから 2まい」（集合数）は、1枚目と2枚目の両方を指すのに注意が必要です。

②も、**①**と同様に問題の図の「うえ」「した」を見ながら、上と下のどちらを基準にして数えているのかを一緒に確認するようにしましょう。

2 いくつと いくつ ①

3ページ

10分 2ページ

2 いくつと いくつ ①

1 □に あてはまる かずを かきましょう。

① 3と 4で **7** ② 6と 2で **8**

③ 2と **7**で 9 ④ **4**と 2で 6

2 □に あてはまる かずを かきましょう。

① 5は 1と **4** ② 8は **5**と 3

③ 4は 3と **1** ④ **7**は 1と 6

3 あかい ボールと あおい ボールが あわせて 10こになるように、●と ○を **2**で おすびましょう。

さんずう

おうちのかたへ

数の構成の学習です。1つの数を2つ以上の数の和や差として見ることで、数を多面的にとらえていきます。今回の学習は、今後の「たし算」や「ひき算」の土台となりますので、しっかりと身につけておく必要があります。

数の構成の学習には、合成（AとBでC）と分解（CはAとB）の2つがあり、**1**は合成、**2**は分解の問題です。お子さまが戸惑われているようでしたら、おはじきや硬貨などの具体物を並べて実際に操作しながら考えるとよいでしょう。

3は、10の数構成についての問題です。10の合成と分解は、1年生の算数において最大の山場である繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算を理解するための鍵となるので、特に重要な内容です。夏休み以降の学習を円滑に進めるためにも「6と4」「3と7」など、あわせて10になる組み合わせを瞬時につくれるように練習するとよいでしょう。

3 たしざん ①

4ページ

10分 2ページ

3 たしざん ①

1 けいさんを しましょう。

① $4+4=8$ ② $6+3=9$

③ $5+1=6$ ④ $3+4=7$

⑤ $1+8=9$ ⑥ $4+6=10$

2 えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。

きに **2** ひきの カブトムシが います。そこに

3 ひきの カブトムシが とんで きて、きに

とまりました。きに いる カブトムシは ぜんぶで

5 ひきになりました。

しきに かくと、

しき **2** + **3** = **5** こたえ **5** ひき

おうちのかたへ

1は、10までのたし算です。もしお子さまが指を使って計算していても、無理に止める必要はありません。まずは「いくつといくつ」の学習に戻り、おはじきや硬貨などの具体物を使って「4と4で8」「5と1で6」などと声に出しながら数える経験を重ねましょう。

このように数の合成・分解を繰り返すことで、頭の中に数量のイメージ（数の概念）が定着していきます。概念さえ身につけば、自然と指を使わずに計算できるようになっていきます。

2は、「増加（ふえるといくつ）」の場面です。もともと木にいる「2匹」に新たに「3匹」が加わることから、「3+2」よりも、「2+3」のほうが、問題文に合った式となります。

たし算やひき算は、単に計算方法を覚えるだけでなく、式が意味する場面を具体的に理解することが大切です。式は、場面を数字と記号を用いて表すものです。文字だけの問題文を読んだときに、イラストのような場面を思い浮かべられるようになっていくとよいでしょう。

4 たしざん ぶんしょうだい ①

5ページ

10分間 ことば 3 ページ

4 たしざん ぶんしょうだい ①

1 イチゴの かきごおりが 3こ、
レモンの かきごおりが 3こ
あります。かきごおりは あわせて
なんこ ありますか。

しき $3 + 3 = 6$

こたえ 6こ

2 すいそうに メダカが 8ひき います。そこに メダカを
2ひき いれると、すいそうの なかの メダカは ぜんぶで
なんびき になりますか。

しき $8 + 2 = 10$

こたえ 10ぴき

3 あかい アサガオが 7りん さいて います。あおい
アサガオは、あかい アサガオより 2りん おおく
さいて います。あおい アサガオは なんりん
さいて いますか。

しき $7 + 2 = 9$

こたえ 9りん

おうちのかたへ

文章題を解くためには、文章から問題の場面を把握し、問われている内容をよく理解することが必要です。今回は第3回とは異なり、問題に出てくる数とイラストの数は一致していないため、より一層場面を想像する力が必要になってきます。お子さまが難しく感じている場合、「かき氷の数だけ○をかいてみよう。」など、図をかいて整理するよう促すとよいでしょう。

1は「合併（あわせていくつ）」、2は「増加（ふえるといくつ）」の問題です。3は、一見すると増加のようですが、次のようなステップでの理解が必要です。

赤いアサガオ ○○○○○○

青いアサガオ ●●●●●●●●

- ①赤いアサガオと ②多く咲いている数。
同じだけある。

このように小さいものの数と、小さいものと大きいものの差がわかっていて、大きいものの数を求める問題を「求大」といいます。

かんすう

5 ひきざん ①

6ページ

10分間 ことば 3 ページ

5 ひきざん ①

1 けいさんを しましょう。

① $8 - 1 = 7$ ② $5 - 3 = 2$
③ $3 - 3 = 0$ ④ $9 - 6 = 3$
⑤ $10 - 5 = 5$ ⑥ $6 - 2 = 4$

2 えを みて、もんだいに こたえましょう。

1 スイカと メロンの かずだけ ○に いろを
ぬりましょう。

2 スイカと メロンは どちらが なんこ おおいですか。
□に あてはまる かずや ことばを かきましょう。

しき $6 - 4 = 2$

こたえ スイカ が 2 こ おおい。

おうちのかたへ

1は、10までのひき算の計算です。たし算のときと同様、お子さまが指を使って考えている場合は、無理に止めさせず、引き続き、おはじきや硬貨などを使って具体物で数の合成や分解操作の練習をしていくとよいでしょう。

ひき算の文章題について、本書では、「求残（のこりはいくつ）」、「求部分（ひくといくつ）」、「求差（ちがいはいくつ）」の3つを主に取り上げています。

2は求差の問題で、つまずきやすい内容です。問題に沿って、スイカとメロンの数を半具体物「●」に置きかえた後、スイカの「●」とメロンの「●」を1つずつ線で結んで1対1の対を作るようにして考えると、結ばれていない「●」の数が多い分の数になり、どれだけ多いのかが、視覚的にもわかりやすくなります。

22の式を「 $4 - 6 = 2$ 」のようにしてしまっている場合は、「ひき算は、大きい数から小さい数をひく」という原則をしっかり確認しましょう。

6 ひきざん ぶんしょうだい ①

7ページ

10点 4ページ

6 ひきざん ぶんしょうだい ①

1 れいぞうこに アイスは 9ほん あります。3ほん とりだして たべると、れいぞうこのアイスは なんぼんに なりますか。

しよ $9 - 3 = 6$

こたえ **6ほん**

2 カニが 8ひき います。カメが 6ひき います。カニと カメは どちらが なんびき おおいですか。

しよ $8 - 6 = 2$

こたえ **カニが 2ひき おおい。**

3 ペンギンが 10わ います。そのうち、およいで いる ペンギンは 5わです。およいで いない ペンギンは なんわですか。

しよ $10 - 5 = 5$

こたえ **5わ**

さんすう

おうちのかたへ

ひき算の文章題に取り組みます。たし算の文章題同様、文章を読んでその問題の場面を把握し、問われている内容をよく理解することが必要です。文章題に取り組む際の子どもがまずきやすいケースとして、「答えは求められるが式が立てられない」というケースや、「答えとして求めるべき数が式の中に出てきてしまう」というケースがあります。そのような場合には、お子さまがどのように考えたのかを説明してもらいましょう。言葉にすることで、問題の場面や自分の考えを整理することができます。説明ができたところで、「だからこういう式になるんだね。」と、改めて式を立てたり、「問題にはこの数は出てこないね。」と立てた式を確認したりするとよいでしょう。

1は「求残（のこりはいくつ）」、2は「求差（ちがいはいくつ）」、3は「求部分（ひくといくつ）」の問題です。

7 かかれて いる すうじ

8ページ

10点 4ページ

7 かかれて いる すうじ

1 おなじ えには おなじ すうじが、ちがう えにはちがう すうじが はいります。それぞれの えにはいるのは、1から 9の すうじです。
□にあてはまる すうじを かきましょう。

1 $10 - \text{サッカーボール} = 7$
 $\text{サッカーボール} + \text{バスケットボール} = 4$
サッカーボールは **3** で、バスケットボールは **1** です。

2 $\text{りんご} - \text{みかん} = 5$
 $\text{みかん} + \text{みかん} = 8$
りんごは **9** で、みかんは **4** です。

3 $\text{うさぎ} + \text{うさぎ} = 8$
 $\text{うさぎ} - \text{うさぎ} = 4$
うさぎは **6** で、うさぎは **2** です。

おうちのかたへ

覆面算とよばれる問題です。同じ絵のところには同じ数字が入り、異なる絵のところには異なる数字が入るという考え方が基本です。

1 $10 - \text{サッカーボール} = 7$ で迷っている場合には、「10からどんな数をひいたら7になるかな？」などと声をかけてあげてください。サッカーボールにあてはまる数を求める計算は3年生以降で学習するので、1年生では、バスケットボールに1から順に数字をあてはめていく、という考え方で十分です。ここで求めたサッカーボールの数はバスケットボール + うさぎ = 4の式でも使うことに気づかせてあげるとよいでしょう。

2でりんご + みかん = 8の式で戸惑っている場合は、「同じ数を2つ合わせると8になる数はいくつかかな？」などと声をかけてあげてください。

3では、うさぎ + うさぎ = 8というところで、わからない数が2つ出てくるので迷ってしまうかもしれません。うさぎやみかんにあてはまる数は1から9の数字のどれかなので、「もしうさぎが1だったらみかんは何かな？」などと声をかけ、うさぎ - うさぎ = 4となる組み合わせを探してみてください。

10分 10歳以上 5ページ

8 たすのかな ひくのかな ①

1 えをみて、□にあてはまるかずやしきを かきましょう。

① トマトが **3** こ あります。カボチャが **1** こ あります。トマトと カボチャは あわせて **4** こです。しきに かくと、

しよ $3 + 1 = 4$ こたえ **4** こ

② トマトと カボチャは あわせて **4** こ あります。ピーマンは **5** こ あります。トマトと カボチャとピーマンは ぜんぶで **9** こです。しきに かくと、

しよ $4 + 5 = 9$ こたえ **9** こ

③ キュウリが **2** ほん あります。ナスが **4** ほん あります。ナスは キュウリより **2** ほん おおいです。しきに かくと、

しよ $4 - 2 = 2$ こたえ ナスは キュウリより **2** ほん おおいです。

おうちのかたへ

第6回までは、「たしざん」と書いてあるからたし算の問題」「ひきざん」と書いてあるからひき算の問題」のように、たし算を使うのかひき算を使うのか迷うことなく答えを求めることができていたかもしれません。ところが今回は、たし算を使うのか、ひき算を使うのかを問題を読んで自分で判断する必要があります。そのため、少し時間がかかる場合もあるかもしれませんが、お子さまにじっくり取り組むよう促してください。

①は「あわせて □こです。」とあるので、たし算を使えばよいことがわかります。

②は、「4+5」を模範解答としましたが、「3+1+5」と3つの数のたし算で考えている場合でも、問題の場面をきちんと理解できている証拠ですので、○をつけてあげてください。

③は、ナスがキュウリよりどれだけ多いかを求める問題なので、ひき算を使います。「2-4=2」のようにしてしまっている場合は、「ひき算は、大きい数から小さい数をひく」という原則をお子さまにしっかり伝えてあげましょう。

かんすう

10分 10歳以上 5ページ

9 たすのかな ひくのかな ②

1 ふえをふいているひとが10にんいます。たいこをたたいているひとは、ふえをふいているひとより7にんすくないそうです。たいこをたたいているひとはなんにんですか。

しよ $10 - 7 = 3$ こたえ **3にん**

2 わたあめが9ほんあります。やきとりが7ほんあります。トウモロコシが5ほんあります。わたあめとトウモロコシのどちらがなんほん おおいですか。

しよ $9 - 5 = 4$ こたえ **わたあめが4ほん おおい。**

3 バスにのっています。5にん おりたので、バスにのっているひとは3にんになりました。はじめにバスにのっていたひとはなんにんですか。

しよ $5 + 3 = 8$ こたえ **8にん**

おうちのかたへ

たし算とひき算の文章題です。発展的な問題も取り上げましたので、場面が理解しにくく、難しく感じられるかもしれません。問題文から場面を読み取り、たし算かひき算かを考えるためにも十分な時間を確保し、じっくりと取り組むとよいでしょう。わかりにくい場合には、おはじきや硬貨などの具体物や●をかいた図などを用いて考えてみるよう促してあげましょう。

①は、ひき算の「求小（小さいほうの数量を求める）」の問題です。あるものよりもどれだけ少ないかが示されているので、ひき算を用います。

②は、過条件と呼ばれる問題で、問いとは関係のない数をあえて登場させている問題です。今までの問題は、出てきた数どうしを組み合わせれば答えを求めることができましたが、この問題では、自分で用いるべき数を見極める力が必要です。

③は、さらに場面の想像が難しい問題です。「おりた」というひき算を連想するような言葉がありますが、実際には、たし算を用います。

10 なんばんめ ②

10 なんばんめ ②

ミケの いえに ちうと ちんちんが あそびに きました。

1 えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。

① たなは ぜんぶで **5** だん あります。

② うえから **2** だんめに あかい ぼうしが あります。

③ したから **3** だんめに しろい ほんが あります。

ちんちん

ちんちんが、ミケの ハヤの たなで なにも かかれて いない まっしろな ほんを あつめました。 ミケが その ほんを ひらくと…

ちんちん ミケ ちんちん

おうちのかたへ

今回からは、物語を読みながら、物語のいろいろな場面で算数の問題を解いていきます。本書の第9回までの内容を繰り返し学習します。物語を楽しみながら問題に取り組みるとよいでしょう。

今回は「なんばんめ」の単元の復習です。

①①は棚が何段あるか数えましょう。

②③で何段目かを数えるとき、問題の図の「うえ」「した」を見ながら、上と下のどちらを基準にして数えているのかを一緒に確認するようにしましょう。

本棚やロッカーなど、お子さま自身が使用したり目にしたりする機会も多いかと思います。日常生活の中で「上から何段目?」「下から何段目に入れてね。」など、意識して声かけすることで自然に理解ができるようになっていくでしょう。

11 なんばんめ ③

11 なんばんめ ③

ミケたちは、しろないの まちに きて しまいました。 かえりあちを さがすため、まちの ひとに はなしを ききます。

1 えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。

みぎから **3** ばんめは レストランです。

ひだりから **2** ばんめは ケーキのおみせです。

みぎから **2** ばんめは うらないの みせです。

ミケたちは、うらないの いしに うらなって もらいます。

2 カードが ならんで います。ミケが えらんだ カードを あおで、キコが えらんだ カードを あかで めりましょう。

うえの れつの みぎから 3まいめ。 (キコがえらんだカード)

したの れつの ひだりから 2まい。 (キコがえらんだカード)

キコがえらんだカード(あか)

おうちのかたへ

前回と同様、物語を読みながら「なんばんめ」の単元の問題を解いていきます。

①では同じ「2番目」でも左から数えるか右から数えるかで違うお店を表すことに注意が必要です。左と右のどちらを基準にして数えているのかを一緒に確認するようにしましょう。これまでに扱った「上(下)から」「左(右)から」の他に、基準を表す言葉には「前(後ろ)から」などもあります。

②では、「ひだり」「みぎ」と「うえ」「した」の2種類の基準を組み合わせる物の位置を表しています。こうした数を用いた物の位置の表し方は、後に学習する座標を用いた位置の表し方につながります。日常生活の中でも、例えば自動販売機で飲み物を買う際には、「お茶は上から○段目の右から□本目にあるね。」といった声かけをすると、より一層理解が深まるでしょう。

おはなし みるの まち 10分間 こたえ 7ページ

12 いくつと いくつ ②

うらないに よると、しろい ほんを もちぬしに とどけてあげれば、かえれるそうです。
ミチたちは、ほんの もちぬしを さがす ぼうけんに 出かけます。
ミチが みせを てると、そとを はしって いた だれかと ぶつかって しまいました。

1 したの えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。

①
くろ くろ くろ しろ
くろい ぼうしが 3 こと、しろい ぼうしが 1 こと。ぼうしは ぜんぶで 4 こと。

②
あか あか あか あか あか あか
あかい ボールが 2 こと、あおい ボールが 4 こと。ボールは ぜんぶで 6 こと。

ミチと おつかったのは、みるの まちで シューを する 子どもの リンダでした。ミチたちは、リンダと いっしょに みるの まちに いき、ほんの もちぬしを さがす こと に しました。

さんすう

おうちのかたへ

物語を読みながら、「いくつといくつ」の単元の問題を解いていきます。

①は数の合成の問題です。

①は「3と1で 4」 ②は「2と4で 6」

を絵を見ながら確認しましょう。

10までの数の合成や分解は、10までのたし算やひき算はもちろん、この後に学習する繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算でも大切な考え方となります。不安がある場合には、類題を作ってあげて、繰り返し学習するようにしてください。また、以下のように10までの合成と分解は、おはじきなどを使って視覚化することで、より理解が深まります。

- ○○○○○○○○○ 1と9
- ○○○○○○○○ 2と8
- ○○○○○○○ 3と7
- ○○○○○○ 4と6
- ○○○○○ 5と5

さんすう

おはなし みるの まち 10分間 こたえ 7ページ

13 いくつと いくつ ③

みずみみに うかんで いる あわに はいって、みるの まちに いきます。

1 あわは、あと なんこで 10こに なりますか。
□に あてはまる かずを かきましょう。

①
あと 5 こと。 あと 7 こと。 あと 2 こと。

子どもの リンダと リンダの きょうだいたちの シューが はじまりました。

2 えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。

① エビは ぜんぶで 5 ひき います。

② ぼうしを かぶって いる エビは 3 ひきで、
ぼうしを かぶって いない エビは 2 ひきです。

③ 7 を もつ エビは 2 ひきで、 を もつ エビは 1 ひきで、 を もつ エビは 2 ひきです。

リンダは、みるの まちを くれました。

おうちのかたへ

前回と同様、物語を読みながら、「いくつと いくつ」の単元の問題を解いていきます。

①は「あといくつで10になるか」を考える問題です。この「あといくつ」にあたる数を、補数といいます。

- 「10は 5と 5」
- 「10は 3と 7」
- 「10は 8と 2」

10の分解は数の分解の中でも特に重要なので、繰り返し練習しましょう。

②は、「全部で5匹いるエビ」の「5」という数を以下のように異なる方法で分解します。見方を変えることにより、さまざまな分解の仕方ができるおもしろさに気づけるとよいでしょう。

- ・帽子をかぶっているかどうかで分解
→帽子をかぶっている3匹と
帽子をかぶっていない2匹
- ・持ち物で分解
→つえを持っている2匹、宝石を持っている1匹、せんすを持っている2匹

14 ひとつでがき できるかな？

15ページ

14 ひとつでがき できるかな？

みずの まちには、ほんの もちぬしは いませんでした。
つぎの まちに しゅっぱつです。

1 ルールの とおりに スタート から ゴール まで とおると、
なんとおりの いきかたが ありますか。あてはまる □に
○を かきましょう。

ルール

- ぜんぶの みちを 1かいずつ とおる。
- こうさてんは なんかい とおっても よい。
- やじるし印の おきか かならず すずむ。

スタート

ゴール

1とおり 2とおり 3とおり

おうちのかたへ

進み方は下の図の3通りがあります。

- ① 右下→右上→右下→左→左→右上→右→右



- ② 右下→左→右上→右→右下→左→右上→右



- ③ 右→右下→左→左→右上→右下→右上→右



15 たしざん ②

16ページ

15 たしざん ②

みぎたちは、おまつりを して いる ひの まちに ききました。

1 えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。

① たこやきは、ぜんぶで なんぼんですか。

しき $5 + 4 = 9$ こたえ 9 こ

② かざぐるまは、ぜんぶで なんぼんですか。

しき $2 + 2 = 4$ こたえ 4 ほん

③ わたあめは、ぜんぶで なんぼんですか。

しき $4 + 1 = 5$ こたえ 5 ほん

みぎたちは、おみせの ひとに ほんの ことを ききますが、しって いる ひとは いませんでした。

おうちのかたへ

物語を読みながら、たし算の問題を解いていきます。物語を忘れてしまっているときは、物語部分を読み返しから解いてもよいでしょう。

①は①～③とも「ぜんぶで なんこですか」「ぜんぶで なんぼんですか」とあるので、たし算です。絵でかかれている具体物を数えて、たし算の式で表します。具体物を数えれば、答えは出るので、お子さまが式を書くことを面倒に思ってしまうことや、間違いではありませんが①の式を $4+5=9$ と書いてしまうことがあるかもしれません。この回では、具体物を数えて立式することで、「合併（あわせていくつ、ぜんぶでいくつ）」の場面を理解し、立式の根拠を明確にしていきます。問題の内容を読み取り、ていねいに考えて書くよう促してあげるとよいでしょう。

操作と立式を一致させることで、単なる数字の計算作業に留まらず、問題場面に応じた適切な式をつくる力を養うことができます。

おはしん 10分 ことば 9 ページ

16 たしざん ③

ひの まちでは これから はなびが あがるようです。

1 はこの なかに あかい たまが はいって います。そこに あおい たまを 入れると、たまは ぜんぶで なんこに なりますか。
□に あてはまる かずを かきましょう。

しよ $2 + 3 = 5$ ことば **5** こ

2 $6 + 2 = 8$ ことば **8** こ

ひの まちの はなびが うちあがりました。

2 はなびが 3ぱつ あがりました。そのあと、4ぱつ あがりました。はなびは、ぜんぶで なんぱつ あがりましたか。
□に あてはまる かずを かきましょう。

しよ $3 + 4 = 7$ ことば **7** はつ

ミチは、ひかる いしを もらいました。ボシタが ふと ぼんを ひらくと、リンゴの ショーや、はなびの えが かかれて いました。

さんすう

おうちのかたへ

前回に引き続き、「ひの まち」のお話です。お祭りをテーマにしているので、たし算の問題を解きながら、どんなお祭りに行ってみたいかなど想像力をふくらませる声かけをしてもよいでしょう。

1、2は「増加（ふえるといくつ）」のたし算の場面です。

1では、たされる数が初めから書かれています。2は、たされる数とたす数が空欄です。増加の場面をとらえ、「3+4」と立式できるとよいでしょう。しかし、たし算は交換法則が成り立つので、増加の場面でたされる数とたす数が逆でも間違いではありません。2で「4+3」と数値を逆にして立式している場合は、○をつけてあげた上で、「最初に3発上がって、そのあと4発上がるから、「3+4」のほうがもったいいよ。」と話してあげてください。

さんすう

おはしん 10分 ことば 9 ページ

17 たしざん ぶんしょうだい ②

ぼんには、もって いる ひどが いった まちの ことが かかれて いくようです。ミチたちは りんご や さいなどを つくって いる つちの まちに きました。

1 かごの なかに やさいが 4こ はいって います。ボシタが そこに やさいを 5こ 入れると、かごの なかの やさいは ぜんぶで なんこに なりますか。

しよ $4 + 5 = 9$ ことば **9** こ

2 きいろの くだものが 3こ あります。みどりいろの くだものは、きいろの くだものより 2こ おおいそうです。みどりいろの くだものは なんこ ありますか。

しよ $3 + 2 = 5$ ことば **5** こ

ミチたちは、やさしい くだものを とる てつたいを しながら ぼんの ことを ききますが、ぼんの もちあしは みつかりません。

おうちのかたへ

物語を読みながら、たし算の文章題に取り組みます。

1は「増加（ふえるといくつ）」の問題です。元のかごの中に入っている「4こ」の野菜に新たな野菜を「5こ」を加えることから、「5+4」よりも、「4+5」のほうが、問題文に合った式となります。「5+4」でも誤りではありませんが、できたことをほめてあげた上で、問題文に合った式を書くようお子さまにお話ししてあげるとよいでしょう。

2は「求大（大きいほうはいくつ）」のたし算です。求大の問題では、ものの数を正しくとらえることが必要になってくるので、以下のような図を用いて2ステップで考えるとよいことをお子さまに伝えてあげるとよいでしょう。

黄色の果物 ○○○

緑色の果物 ●●●

- ①緑色の果物は、黄色の果物と同じ数だけある。
②緑色の果物は、黄色の果物の数より2個多い。

18 たしざん ぶんしょうだい ③

おはなし18
つちの まち

10分 10ページ

18 たしざん ぶんしょうだい ③

ミケたちは、いもほりの てつたいを しします。

1 ミケは いもを 4こ ほりました。キコは いもを 2こ ほりました。ほった いもは あわせて なんこですか。

しよ $4 + 2 = 6$

こたえ 6こ

ミケたちは、てつたいを した おれいに カルイモと いふ たべると からだが かるく なる いもと、にじの たねと やさいを もらいました。

くもの うえにも まちが ある ことを おしえて もらった ミケたちは、そらを とぶ ばしやに のり、ほんの もちもしを さがしに いきます。

2 そらを とぶ ばしやに ひどが 4にん のって います。そこに 3にん のると ばしやに のって いる ひとは ぜんぶで なんにん に なりますか。

しよ $4 + 3 = 7$

こたえ 7にん

おうちのかたへ

前回に引き続き、「つちの まち」のお話です。たし算の文章題に取り組みます。

1は「合併（あわせていくつ）」、2は「増加（ふえるといくつ）」の問題です。文章を読んでその問題の場面を把握し、問われている内容をよく理解することが必要です。難しく感じているようでしたら、お子さまと一緒に問題文を読みながら、「ミケがほったいもの数だけ●をかいてみよう。」と以下のような図をかくことを促し、考え方を整理してあげるとよいでしょう。

1 ほったいも

ミケ4こ ●●●●

キコ2こ ●●

4と2で、あわせて 6

$4 + 2 = 6$

2 はじめのかず4にん

ふえたかず3にん ●●●

4と3で、あわせて 7

$4 + 3 = 7$

19 ひきざん ②

おはなし19
くもの まち

10分 10ページ

19 ひきざん ②

ミケたちは くもの まちに つきました。カルイモを たべて くもの うえに のる ことに します。

1 に あてはまる かずを かきましよう。

カルイモが 6こ あります。そのうちの 3こを たべると、のこりは ことです。

しきに かくと、

しよ $6 - 3 = 3$

こたえ 3こ

すこし あるくと、ひどが たくさん あつまっ ている ばしよに つきました。くもで できた くるま「クモルマ」に のって くるまを あつめる たいかいが あるようす。

2 に あてはまる かずを かきましよう。

あかい クモルマが 5だい、あおい クモルマが 7だい あります。どちらの クモルマが なんだい おおいですか。

しよ $7 - 5 = 2$

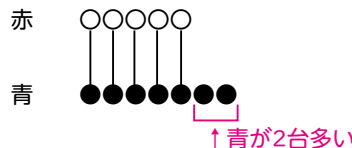
こたえ あおい クモルマが 2 だい おおい。

おうちのかたへ

物語を読みながら、ひき算の問題を解いていきます。

1は「求残（のこりはいくつ）」の問題です。3個食べているので、元の数から減っていることが読み取れます。元の数の「6」がひかれる数、食べた数の「3」がひく数になります。

2は、「求差（ちがいはいくつ）」の問題です。求差の問題では、半具体物「●」に置きかえて考えると、理解しやすくなります。お子さまが戸惑っている場合は、以下のように、赤いクモルマの「○」と青いクモルマの「●」を1つずつ線で結び、1対1対応をさせて考えるよう促すとよいでしょう。どれだけ多いのかが、視覚的にもわかりやすくなります。



おぼえよう! くもの まち 10分 11ページ

20 ひきざん ③

ミケたちも ほしぐもを あつめる たいかに できます。

1 えをみて、もんだいに こたえましょう。

① キコと ポンタが あつめた ほしぐもの かずだけ に かずを かきましょう。

ミケ	☆☆☆☆☆	5	こ
キコ	☆☆☆☆	4	こ
ポンタ	☆☆☆☆☆	7	こ

② ミケと キコは どちらが なんこ おおく ほしぐもを あつめましたか。 に あてはまる かずや ことばを かきましょう。

しよ $5 - 4 = 1$

こたえ **ミケ** が **1** こ おおく あつめた。

③ あつめた ほしぐものが いちばん おおい ひとつ、いちばん すくない ひとつは なんこ ちがいますか。 に あてはまる かずを かきましょう。

しよ $7 - 4 = 3$ こたえ **3** こ

さんすう

おうちのかたへ

前回に引き続き、「くもの まち」のお話です。ひき算の文章題を解いていきます。

①は「求差（ちがいはいくつ）」の問題です。

①は、指差し確認しながらひとつずつ数えて答えを導いていけば問題ありません。絵を見て「キコはミケより1個少ないから4個だね。」と気づいて答えられている場合は、数の概念がしっかりと身についてきていますので、たくさんほめてあげましょう。

②で式を「 $4 - 5 = 1$ 」のようにしてしまっている場合は、「ひき算は、大きい数から小さい数をひく」という原則をしっかり説明してあげましょう。

③は、今までの求差の問題と異なり、比べるのがどの数なのか具体的でなく、自分で見つけなければならぬため、発展的な内容といえます。①の絵を見て、ほしぐもの数がいちばん多い人、いちばん少ない人は誰かを判断するよう促しましょう。

さんすう

おぼえよう! つぎの まちへ 10分 11ページ

21 あう えは どれかな?

くもの まちでも、ほんの もちぬしは あつかりませんでした。 つぎの まちに むかいます。

1 ①、②、③に ぴったり いる えを 1つずつ えらんで、 に ①、②、③の すうじを かきましょう。 いきどまりには かならず はな宮が さいています。

スタート

ゴール

むきか ちがう えを えらびよ。

②

③

おうちのかたへ

穴があいているパズルにあてはまるピースを選択肢から探す問題です。

穴があいている部分の正方形の上下や左右からつながっている道を考えながら、あてはまるピースをさがしてみましよう。

選択肢にあるピースをそのままあてはめても、うまく道が繋がらない場合は、ピースを回転させてあてはまるかを考えさせてみてください。実際にピースを回転させた絵をかいてみると、わかりやすくなります。



22 ひきざん ぶんしょうだい ②

23ページ

22 ひきざん ぶんしょうだい ②

ミチたちは、きの まちに つきました。

1 そらを とぶ ばしやに 7にん のって います。3にん おりると、ばしやに のって いる ひとは なんにんに なりますか。

しよ $7-3=4$

こたえ 4にん

ようせいの こどもたちに ほんの ことを きいて みます。

2 こうえんに いる 9にん の ようせいの こどもの うち、4にんが ぼうしを かぶって います。ぼうしを かぶって いない こどもは なんにんですか。

しよ $9-4=5$

こたえ 5にん

ようせいの こどもたちは ほんの ことを しりませんでしたが、なんでも して いる ようせいの かいだん の ところに つれて いて くれるそうです。

うちのかたへ

①は「求残（のこりはいくつ）」の問題です。3人降りていることから、元の数から減っていることがわかるのでひき算を使います。はじめの人数の「7」がひかれる数、降りた人数の「3」がひく数になります。

②は「求部分（ひくといくつ）」の問題です。これは、全体が2つのグループに分かれていて、全体の数とわかっていて一方のグループの数から、もう一方の（残りの）グループの数を求める内容になります。

$$\text{全体数} - \text{グループ①} = \text{グループ②}$$

この問題では、物の数が実際に減るわけではないため「求残」の問題よりも、おさまがつまずきやすい傾向にあります。教える際は、おはじきや硬貨などの具体物を使って、「ぼうしをかぶっていない子の数を知りたいときは、全体から、ぼうしをかぶっている子の数をひけばいいんだよ。」と、実際に動かしながら見せてあげると、考え方を整理しやすくなります。

23 ひきざん ぶんしょうだい ③

24ページ

23 ひきざん ぶんしょうだい ③

ようせいの こどもたちへの おれいに つちの まちの やさいを わたしました。

1 あかい やさいが 7こ あります。きいろい やさいが 6こ あります。どちらの やさいが なんこ おおいですか。

しよ $7-6=1$

こたえ あかい やさいが 1こ おおい。

かいだんとはなす ために、ミチは にじの たねを まき、あずの ほうせいで あめを あらせ、ひかる いしで ひかりを たらして にじの かいだんを つくりました。

2 にじの かいだんは ぜんぶで 10だんです。6だん あがりました。いちばん うえまで あがるには あと なんだん あがれば よいですか。

しよ $10-6=4$

こたえ 4だん

かいだんに はなを ききました。どうやら しろい ほんを みた ことが ないようす。しろい ほんは、この せかいの ものでは ないらしいのです。

うちのかたへ

前回に引き続き、「きの まち」のお話です。ひき算の文章題を解いていきます。

①は「求差（ちがいはいくつ）」の問題です。わかりにくい場合は、赤い野菜と黄色い野菜の数を半具体物（○や●）に置きかえて、赤い野菜の「○」と黄色い野菜の「●」を1つずつ線で結んで1対1の対を作るようにして考えてみるよう促しましょう。

②では、階段の数え方「だん（段）」を取り上げました。このように、物の数を数えるとき、数の後につける「ほん（本）」や「ひき（匹）」のことを「助数詞」といいます。本冊子では、第4回では花の数え方として「りん（輪）」を、第16回では花火の数え方として「はつ（発）」などを取り上げています。算数だけに限らず、いろいろな物の数え方は大切なので、日常生活の中でも、例えば鳥を見かけたときに、「鳥は、1羽、2羽と数えるよ。」と、助数詞に触れる機会をつくってあげるとよいでしょう。

24 たすのかな ひくのかな ③

25ページ

24 たすのかな ひくのかな ③

ほんの なかの しらい ペーシは、いままで いった まちの ことで ぜんぶ うまりました。でも、ほんの もちぬしは あつかりません。
ミゲたちは もういちど イレーバの うらないの みせに きました。

1 ぬりかたをみて、こたえが おなじに なる ところにおなじ いろを ぬりましょう。

ぬりかた
こたえが 5...あおいろ、6...きいろ、7...ちやいろ

イレーバの みせの おくの とびらを あけると、のりものが ありました。あんごうを とくと、ペつの せかいに いける のりもの ようです。

おうちのかたへ

たし算やひき算の計算を使った色塗りをします。計算数が18問と多いので、問題に取り組む気力が下がってしまうことがあるかもしれません。物語が終盤にさしかかっています。気分転換も兼ねて、ここまでの物語を再度読み返してから学習を進めてもよいでしょう。

①では、「計算をする」→「答えが同じところに同じ色を塗る」、という2つの手順をふみます。計算と色塗りを一緒にやってしまうと、今何をやっているのか混乱してしまうかもしれません。

次のように、4つのステップに分けて1つ1つの作業をていねいに行っていくとよいでしょう。

- ①計算をした答えを書く
- ②答えが5のところに青色を塗る
- ③答えが6のところに黄色を塗る
- ④答えが7のところに茶色を塗る

お子さまが別の色を塗ってしまった場合は、まずは色を塗れたことをほめてあげてから、間違いに合ったフォローをしてあげましょう。

かんすう

25 たすのかな ひくのかな ④

26ページ

25 たすのかな ひくのかな ④

1 きごうで かかれて いる かずを □に かきましょう。おなじ きごうには おなじ かずが かかれて います。

① $\diamond + 2 = 10$ $7 - 2 = \star$
 $\triangle + 4 = 6$ $9 - \bigcirc = 5$
 ◇は 8、☆は 5、△は 2、○は 4

② $\heartsuit + 1 = 8$ $8 - \textcircled{3} = 5$
 $3 + \textcircled{3} = \square$ $\heartsuit - \square = \textcircled{1}$
 ♡は 7、Ⓜは 3、□は 6、Ⓢは 1

ミゲたちが あんごうを とくと、とつせん ビー、ビー! と おとが なりだし、つぎの しゅんかん、のりものは ミゲたちを のせて きて しまいました。

おうちのかたへ

たし算やひき算の計算を使った発展的な問題に挑戦します。

①①は、例えば $\diamond + 2 = 10$ のとき、 $\diamond = 10 - 2$ の計算で求められますが、それを学習するのは3年生以降になりますので、ここでは、◇に具体的な数をあてはめて考えていきます。◇に1、2、…と順番に数をあてはめて、正しい計算になる数を見つけていきます。

$\triangle + 4 = 6$ や $9 - \bigcirc = 5$ も同様に、△や○に具体的な数をあてはめて考えていくよう促しましょう。おはじきなどを使って考えてもよいでしょう。

②は、1つの式に対して、わからない数が2つや3つのものもあります。 $\heartsuit + 1 = 8$ や $8 - \textcircled{3} = 5$ のようにわからない数が1つのものから求め、同じ記号には同じ数が入ることを確認しながら、記号の近くにメモをするとよいでしょう。難しい問題ですので、お子さまと一緒に取り組んであげてください。

26 たすのかな ひくのかな ⑤

27ページ

おうちのかたへ

たし算やひき算の文章題を解いていきます。

1は、「あわせて なんぼん さいて いますか」とあるので、「合併（あわせていくつ）」の問題でたし算を使います。問題に合った立式ができていますか確認してあげましょう。

2は、「どちらが なんこ おおいですか」とあるので、「求差（違いはいくつ）」の問題でひき算を使います。問題とは関係のない数が出ている過条件の問題なので、個数を比べるものはチョコレートとあめであることを確認しましょう。必要がある数字に○をする、もしくは必要がない「ガムが8こ」の部分に取り消し線を書くと情報を整理しやすくなることを伝えてもよいでしょう。問題に出てくる順番で「7-9」と式を立てないように注意が必要です。また、「どちらが」「なんこ おおい」と聞かれているので、答えは「2こ」だけでは不十分です。問題で問われている形で答える習慣をつけましょう。

26 たすのかな ひくのかな ⑤

のりものは、みたことの ある いえの まえに つきました。

1 かだんに あかい チューリップが 2ほんど、さいろい チューリップが 4ほんど さいて います。チューリップは、あわせて なんぼん さいて いますか。

しき $2 + 4 = 6$

こたえ 6ほんど

その いえは、むかしの ぶんどの いえでした。まどから のぞくと、へやの なかに は たくさんの ものが ちらばって います。

2 チョコレートが 7こ、ガムが 8こ、あめが 9こ あります。チョコレートと あめは、どちらが なんこ おおいですか。

しき $9 - 7 = 2$

こたえ あめが 2こ おおい。

さんすう

さんすう

27 たすのかな ひくのかな ⑥

28ページ

おうちのかたへ

たし算やひき算の文章題です。問題文から場面を読み取り、「たし算かひき算か」を考えるためにも十分な時間を確保し、じっくりと取り組んでみてください。また、物語も最後の場面になります。ここまでどんなお話だったか聞いてみてもよいでしょう。要約して話す力をつける練習にもなります。

1は「求小（小さいほうはいくつ）」の問題です。「とした（年下）」という表現が聞き慣れないお子さまもいるかと思えます。「年齢が4歳違う」ことを意味していると教えてあげてください。その上で、どちらのほうか年齢が小さいのかを考えるよう促しましょう。

2は「増加（ふえるといくつ）」の問題です。「1さつもらうと」とあるので、数が増えることがわかります。もとの数の「3」がたされる数、増えた数「1」がたす数です。

27 たすのかな ひくのかな ⑥

へやの すみで ちいさな ミケが なくて います。

1 ミケは、6さいです。ちいさな ミケは、ミケより 4さい としたです。ちいさな ミケは なんさいですか。

しき $6 - 4 = 2$

こたえ 2さい

ミケは、おもいました。

「そうか！ ぼくたちが ぼうけんして いた せかいには、ぼくが ちいさい ころに よんだ ほんの なかの せかいだ！ ほんの もちぬしは、ちいさな ぼくだ！」

2 ちいさな ミケは ほんを 3さつ もって います。あたらしく 1さつ もらうと、ちいさな ミケが もっている ほんは なんさつに なりますか。

しき $3 + 1 = 4$

こたえ 4さつ

「なかないで、おにいちゃんは、この ほんを とどけに きたんだよ。」
ミケが ほんを わたすと、まっしろな ひかりに つつまれて…。
めを あけると、ミケたちは もとの へやに もどって いました。

28 あんごうを とこう

1 あんごうよう と ちず と メモ を みて、いえが ある ばしょを ①から ⑦の なかから えらんで □に かきましょう。

あんごうよう

1	2	3	4	5	6	7
○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●

ちず

メモ

ちずで、ひだりから ●○ばんめ、うえから ●●ばんめ、ますめから しゅっぱつします。ひだりに ○○ます すすんで、そこから うえに ●○ます すすみます。さらに、みぎに ●●ます すすんだ ところにある いえです。

おうちのかたへ

暗号表、地図、メモの3つを見ながら地図上の場所を特定する問題です。

暗号表、地図、メモの3つを見なければいけないので、どこを見ればよいのか混乱してしまうかもしれません。以下の手順で解くようにすると、スムーズに進めることができます。

- ① メモを見ます。いろいろな記号が出てくるので、その記号が何を表しているのかを知る必要があることに気づきましょう。
- ② 暗号表を見ます。メモにある記号と、暗号表の数字を対応させ、メモの記号の近くに対応する数字を書きおきましょう。
- ③ もう一度メモを見て、メモを読みながら、地図を確認していきましょう。出発する場所、指示通りに進んだ場所を1つずつ印をつけていくようにしましょう。上下と左右の2つを考えなければいけないので、複雑になって混乱してしまうかもしれません。1マスずつ数えながら慎重に進めていきましょう。

さんすう

さんすう なつやすみ しあげ テスト

さんすう 1ねんせい なつやすみ しあげ テスト

1 ボールが ならんで います。①から 3こめの ボールに いろを めりましょう。(10たん)

2 テイスクリーム の えを みて、□に あてはまる かずを かきましょう。(1つ10たん)

が 3こ、 が 6こ あります。 テイスクリームは ぜんぶで 9こです。

3 けいさんを しましょう。(1つ10たん)

① $3+5=8$	② $8+2=10$
③ $4-3=1$	④ $9-5=4$

4 ゆりなさんは、いもうとど かいがらひろいを しました。ゆりなさんは 10こ、いもうとは 7こ ひろいました。ひろった かいがらは、どちらが なんこ おおいですか。(しき10たん・ことえ10たん)

ことえ 10-7=3

ことえ (ゆりなさんが 3こ おおい。)

おうちのかたへ

1 お子さまが戸惑っている場合は、左と右のどちらから数えるのかを確認するよう促しましょう。また、「右から3個目」と「右から3個」の意味の違いが理解できているかも確認するとよいでしょう。「右から3個目」(順序数)というのは、1個だけを指すのに対して、「右から3個」(集合数)というのは、1個目と2個目も含めた合計3個を指すという違いがあります。

2 数の合成の問題です。「9」という数を「3と6の和」ととらえることが目的です。

4 「求差(ちがいはいくつ)」の問題です。ひき算の式を立てるときには「大きい数から小さい数をひく」という原則を意識させてください。また、この問題では、違いを答えるだけでなく、ゆりなさんと妹のどちらが多かったのかも答える必要があります。もし「3個」とだけしか書かれていなかった場合は、「ゆりなさんと妹の貝がらの数の違いはできていますよ。この問題では何て聞かれているかな？」などと声をかけ、問題で問われている通りに答えることを意識させてあげましょう。

1 のはら あそび

30ページ

1 のはら あそび

1 はるに みつけられる ものに ○を しましょう。

れい

2 せいかつ の じゅぎょうで のはら あそびを します。さき つけると よい ことは なんですか。ただしい ものに ○を ただしく ない ものに ×を かきましょう。

- あそんだ あとほ でを あらう。
- かってに ほかの ばしょに いく。
- しらない いきものに せわる。

おうちのかたへ 1 春に観察できるものは地域によって異なるので、模範解答通りでなくても構いません。お子さまが春に見たことがあるものを選択できていれば正解としてください。

2 がっこう たんけん

31ページ

2 がっこう たんけん

1 がっこう たんけんを します。① 「なにを する ところですか」と インタビューを します。あう ひとの ところに **おへんじしるし**を はりましょう。

② どこで つかう ものですか。どこか**しるし**を あう きょうしつや ばしょに はりましょう。

おうちのかたへ 1 学校内で働いている人の仕事内容を、インタビュー形式で確認します。通っている小学校に司書の先生がいなかったり、給食室がなかったりする場合もクイズ感覚で考えてみましょう。

3 まち たんけん

32ページ

3 まち たんけん

1 **おき**と **しち**の えで は ちがう ところが 3つ あります。ちがう ところを みつけて **しち**の えに ○を つけましょう。

2 みぎの「こども110ばんのいえ」の **かんばん**を **つち**の えの なから 3つ さがして ○を つけましょう。

おうちのかたへ 1 間違い探しをしながら、道路の正しい歩き方を確認します。親子での外出が増える夏休み。この機会に、交通安全について話し合ってみてもよいでしょう。

4 どんな ふくを きょうかな?

33ページ

4 どんな ふくを きょうかな?

1 きょうの てんきや きおん、やりたい ことに あう ふくを かんがえて、**おちかくしるし**を はりましょう。

れい

きょうから なつやすみ、はれて いて とても あついよ。

きょうは けきが ちつて いるよ、とても さいいよ。

おうちのかたへ 1 気温は3年生以降に習うため、ここでは季節や天気などに合わせてお子さまなりに洋服を選んでいけば正解としてください。なぜその洋服を選んだのか理由を聞いてみるのもよいでしょう。

せいかつ

「く」 なつやすみしあげテスト

くくご

1ねんせいなつやすみ
しあげ
テスト



この本 17 ページ



1 まちがいを みつけて、ただしく
かきなおしましょう。(「か」しよ4てん
「い」 わたしは せんべくを た×る。

1 おねさんと はな×を みる。

2 おおきな らっ×を ふく。

3 えん×つを じよ×すに けする。

3 つぎの ぶんしようを よんで、
もんだいに こたえましょう。

2 えに あうように □に「ち」「は」「せ」「た」
「こ」を かきましよう。

でんしやに のつたら、

わ にが いた。

へ

いくのつと きかれた

は お どのうい、
え ほんを おどした。



1 すつとばされた やまんばちゃんは、
どんな ようすでしたか。6じの ことばを
さがして かきましよう。(15てん)

おおよろこび

2 おつちて きた やまんばちゃんは、
そのあと どう しましたか。(20てん
おおイノシシに、もういっぺん

おねだり

やってくれと
する しまつだった。

3 そのひ、おおイノシシが 1003かい
やったのは、どんな ことですか。あう
ものに ○を つけましよう。(15てん)

- () やまんばちゃんの しつぽを
グイグイ ひっぱる こと
- () やまんばちゃんを たかい たかい
する こと
- (○) やまんばちゃんを そらに
ほうりあげる こと

おうちのかたへ

1 長音(伸ばす音)、濁音・半濁音、を確認する問題です。

1 「おねえさん」と直せていなかった場合は、「エー」と伸ばす音はほとんども「い」と書くけれど、「おねえさん」だけは「え」と書くよ。」と教えてあげましよう。2 「じようず」と直せていなかった場合、「オー」と伸ばす音は「う」と書くことを伝え、「おとつた」と「おはよう」などがあることを確認します。例外として、「おおき」「こおり」などは、音のまま「お」と書くこともあわせて確認するとよいでしょう。濁音の点(く)半濁音の丸(こ)は、書く位置を正しく、はつきりと書きましよう。

2 助詞「は・を・へ」の使い方を確認する問題です。「は・を・へ」は、「ワ・オ・エ」と発音するので混同しやすく、書き間違いが多くなる傾向があります。「は」には主語や話題を示す役割、「を」には動作の対象を示す役割、「へ」には移動の方向を示す役割があります。この問題で間違えたお子さまには、言葉の後に付くときに「ワ・オ・エ」と聞える音は「は・を・へ」になり、それ以外は聞こえるまま「わ・お・え」と書くことを教えてあげましよう。

3 1 やまんばちゃんの様子を読み取る問題です。低学年のうちは、文章中に一番わかりやすく説明されている表現をしっかりと見つけることが大切です。字数も大きなヒントになります。3行目にある「おおよろこび」という言葉を書き抜きます。その後にある「キャッ、キャ」とわらいながら「と」という具体的な様子から、気持ちが変わることも確認しておくとよいでしょう。2 4〜5行目「じめんの うえに おつちてくると」の後に注目します。「……」しまつだった。「という表現のニュアンスは、お子さまにはわかりづらいかもしれません。『おねだりする しまつだった。』と書いてあるね。そんなことになるとは思わないから、大イノシシは困っちゃったんだね。」などと声をかけて、あざれた気持ちがふくまれているということを伝えるとよいでしょう。3 11行目の「1003かい」に注目して、大イノシシの行動を答えましよう。物語を読むときには、「だれが」「なにをしたか」をおさえることが大切です。お子さまがとまどっている場合は、「大イノシシがしたことは、何かな?」とヒントを出してあげましよう。「たかいたかい」「はやまんばちゃんが思ったこと、大イノシシがしたことではないですね。」

19 せつめいぶんを よもう ①

37ページ

10.28 ことば 19 ページ

19 せつめいぶんを よもう ①

● つぎの ぶんしょうを よんで もんだいに こたえましょう。

1 おおくの むしたちに とって、 すいめんは どんな ところですか。 あつもの すべてに ○を つけましょう。

() ○ () ○ () ○ () ○

2 あめんぼが すいめん に いても だいじょうぶなのは どうしてですか。

あめんぼは、からだが

かるく、ながい あしが

ぬれにくくなって

ごうい。

37

おうちのかたへ

あめんぼは水面に浮かんで生活をしている虫です。もしお子さまがあめんぼを知らなかったら、どんな虫かを先に教えておくのもよいでしょう。

1 は、水面があめんぼを除く多くの虫にとってどんな場所なのかを問う問題です。三つ目の選択肢に○をつけてしまった場合は、あせらず文章と選択肢を見比べてゆっくり確認するようにうながしましょう。

2 は、多くの虫との対比であめんぼが水面に浮かんでいられる理由をまとめる問題です。「その ひみつは」で始まる最後の文に答えがあります。

19

20 せつめいぶんを よもう ②

36ページ

10.28 ことば 19 ページ

20 せつめいぶんを よもう ②

● つぎの ぶんしょうを よんで もんだいに こたえましょう。

1 あぶが あめんぼに とらえられるまでを、じゅんぱんに ならべて、せつめいします。() に ばんごうを かきましょう。

() () つよい かげに、ふかれて、 あぶが、すいめん に おちた。

(4) あぶが、もがいて、ちいさな なみが、できる。

(5) あめんぼが、やってきて、 あぶを とらえる。

(2) あぶが、はねを、ばたつかせて とびあがろうと、する。

(3) はねが、みずに、くっついて はなれない。

2 あめんぼは、なにを たべて くらして、いるのですか。

すいめん に おちたむし

36

おうちのかたへ

1 は、書かれている内容の順序を問う問題です。あぶが水面に落ちたあとには何が起るのかを、文章に沿って順に確認するようにしましょう。

2 で、お子さまが「むし」とだけ答えた場合は、説明がたりません。あぶが水面に落ちてからの様子で説明しているのは、あめんぼがどうやって虫をとらえているかです。「むし」と書いたけれど、あめんぼが食べているのはどこにいる虫かな?」などと声をかけて確認し、たりない内容に気づけるようにしてあげましょう。


17 「は」「を」「へ」 ①

39ページ

10.5分 ことば 20 ページ

17 「は」「を」「へ」 ①

1 えに あうように、ただしい ほうを ○で かこみましょう。



2 まちがいを みつけて、×を つけて だらしく かきなおしましょう。

「は」

わたしは ひっこし する。

わたしは アメリカへ いく。

ひこうき は おおくの ひん を のせる。

ともだち は てがみ を かく。

ともだち は ノート を くれた。

ノート を がっこう へ もっていく。

ぼく を なみだ へ ふく。

いこうと、やくそく を する。

またいつか、いっしょに うみ へ は する。

ともだち と おく え ひっこす。

いぬ は しっぽ を ふっている。

38

おうちのカタヘ

「は」「を」「へ」「へ」の使い方を学習する問題です。主語の後「つくへ」「は」「は」「は」「を」と読みます。方角や行き先につける「へ」「へ」「へ」と読み、目的語につける「を」は「オ」と読みます。

お子さまが迷っていたら「だれか」「なにか」の後「つくへ」「つくへ」の音は「は」「は」と書くよ。「なび」の音をかけてあげましょう。

18 「は」「を」「へ」 ②

38ページ

10.5分 ことば 20 ページ

18 「は」「を」「へ」 ②

1 □にあう ほうのじを へ から えらんで、かきましょう。

かぞくて うみ へ みた。

わたし は うきわで あそんだ。

なげても、あそんだ。


おとうとが、かい ひろった。

ひろった かいの え を かいだ。

ひろった かいの え を かいだ。

え もしろい いちにちだった。

2 えに あうように、□に「わ」「は」「お」を「え」「へ」をかきましょう。



かぞくて うみ へ いった。

かぞくて うみ へ いった。

ともだち と おおきく、うみ へ いった。

くもが わ を おみやげに した。

え は がき を おみやげに した。

38

おうちのカタヘ

前回に引き続き、「は」「を」「へ」「へ」の使い方を学習する問題です。「は」「は」「は」「を」を使うのは、主語の後や目的語の後、行き先や方角の後です。お子さまが迷っていたら、それ以外は「ワ」「オ」「エ」の音は「わ」「お」「え」と書くことを教えてあげましょう。

「へ」「へ」

15 ものがたりを よもう ①

41ページ

10.28 ことば 21 ページ

15 ものがたりを よもう ①

● つぎの ぶんしょうを よんで もんだいに こたえましょう。

1 もりの どうぶつたちは どこに あつまって きましたか。

い わ の まわり

2 まつぶたつに われた いわから だれが つまれましたか。

や ま ん ば ちゃん

3 やまんばちゃんは どんな ようす ですか。あつ ものに ○を かきましょう。

() () いわを まつぶたつに わる。 こわい やまんばの あかちゃん

(○) (○) ちっちゃな かわいい やまんばの あかちゃん

() () じめんの そこに もぐっていた やまんばの あかちゃん

おうちのかたへ

- 1 おおきさまがとまどっていたら、「みんなゾロゾロ」とどこかにやってきましたと書いてあるよ。。どこかな。」などと、ヒントを出してあげましょう。
- 2 は、文章中では、先に「ちっちゃな かわいい やまんばの あかちゃん」とあるので、「やまんばの あかちゃん」と答えるお子さまがいるかもしれません。その場合は、「四文字の ○○○○ちゃん」と書かれている部分があるよ。などと声をかけて、文字数を意識させるようにしましょう。
- 3 でおおきさまがとまどっていたら、「やまんばのあかちゃん」とするごみなのめのめ「まねて」のあとに「出てくるね。」と「ヒント」を出してあげましょう。

「い」

16 ものがたりを よもう ②

40ページ

10.28 ことば 21 ページ

16 ものがたりを よもう ②

● つぎの ぶんしょうを よんで もんだいに こたえましょう。

1 それぞれの どうぶつは どんな ようすでしたか。——で むすびましょう。

うさぎたち てっぺんに ひなんする

リス やまんばちゃん めがけて とっしんする

いぶシシ、 くさむらに にげむ

2 おおいシシの キバに つきあぐられて、やまんばちゃんの からちは どうなりましたか。

ポーンと ちゅうに

すっとんだ

おうちのかたへ

- 1 は、それぞれの動物の行動を整理する問題です。おおきさまがとまどっていたら、まずは文章中の「うさぎたち」「リス」「おおいシシ」と書かれている部分を探るように声をかけてあげるとよいでしょう。
- 2 は、何が起こったかを正確に読み取る問題です。「ポーンと ちゅうに」という言葉は文章中にそのまま出てきています。
この文章の続きが「なつやすみ しあげテスト」で出題されます。「このあと、どうなると思うっ。」などと声をかけて続きを予想すると、文章を読むのが楽しくなるでしょう。

9 ことばのめいろ

47ページ

1 ただしく かいて ある ほうに
すすみましょう。

2 ただしく かいて ある ほうに
すすみましょう。

おうちのカタへ

1 は、間違いやすい文字を使った迷路、
2 は、長音や促音、拗音など、間違
いやすい言葉を使った迷路です。間違った方を選びと行き止まりになるのので、
楽しみながら、正しい表記を確認していくことができます。行き止まりになっ
たときには、間違ったものと正しいもの両方を音読して確かめてあげましょ
う。

10 ことばさがし

46ページ

1 たて、よこ、ななめから ことばを
さがして、 で かこみましょう。

2 で みつけた ことばを に
かけただけ たぐらん かきましょ。
もっこ かきたい 紙あいは
かみに かきましょ。

かぶとむし
かげふみ
うちわ
かきごおり
ぼうし
はち
とんぼ

おうちのカタへ

1 のことばさがしには、「せみ」「ほづて」「うて」「ぶどろ」「はち」「かき」「
おり」「かげふみ」「はさみ」「とんぼ」「うちわ」「わし」がひそかに
さまざまに言葉が隠れています。2 は 1 で見つけたものを三つ以上書いていれ
ば丸をしてください。五つ書けたら二重丸をつけてあげましょ。七つ以上書
けていたら、おおいにほめて花丸マークをつけてあげましょ。ドリルに書き
きれないほど言葉を見つけて書きたい場合は、別の紙を用意してあげましょ。

7のばす おと

10分 ことば 25 ページ

7のばす おと

1 かきかたが かわいい ほづの ()に ○を かきましよう。

2 えに あうまうに、こぼを かきましよう。

「おと」

ひこうき すいえい おおかみ ぼうし ごぼう とけい

49

おうちのカタヘ

長音「オー」「エー」などと伸ばす音(音)を学習します。「おかあさん」の「あ」「お」「い」「え」「う」の「い」「う」など、伸ばす音が「ま」「な」「う」の場合、聞こえた通りにそのままひらがなで書きますが、伸ばす音が「オ」「エ」の場合には注意が必要です。伸ばす音が「オ」のときは、多くの場合は「つ」と書きます。しかし、「おおかみ」「おおきい」など歴史的仮名遣いで「おほ」と書いていたものは「お」と書きます。伸ばす音が「エ」の場合は文字で書くと「えい」です。例外は、「おねえさん」「おは、おねえさん」です。例外を意識させるために書いてみましょう。

「い」

8 ひらがな しりとり

10分 ことば 25 ページ

8 ひらがな しりとり

1 えに あう ことばを かいて、しりとりを かんせい させましよう。 うすい もじは なぞりましよう。

りす かんづめ かも じゃがいも ねぎ

すいか めだか もみじ ろうか ぎゅうにゅう かね

48

おうちのカタヘ

「じやがいも」「や」「ぎゅうにゅう」の「ゆ」「め」「は」はマスの右上に書かれているか、確認してあげましよう。

しりとりは、楽しみながら語彙を増やすのにおすすめの方法です。お子さまと一緒に問題の最後の「牛乳」の後に続けてしりとりをもっと楽しんでみるのもよいでしよう。

5 ちいさく かへ「っ」

51ページ

10分 ことば 26 ページ

5 ちいさく かへ「っ」

1 えに あう「っ」を えらんで () に ○ を かきまじりましょう。

2 えに あう「っ」を かきなおしましょう。

3 えに あう「っ」を かきまじりましょう。

おうちのかたへ
 促音(小)を書く「っ」を正しく使う練習をしてみてください。「っ」は縦書きの場合、マスの右上に書きます。正しい位置に書いてみるか、確認してあげましょう。
 1 は、ほ、き、ら、こが入る位置を確認する問題です。「まっ」「まっ」「まっ」を音読してみて、何が違うのかわかるようになります。「ま」「ま」「ま」を音読して、何が違うのかわかるようになります。
 2 「っ」を「っ」に書き換える問題です。「っ」の位置を間違えていたら、ゆめりんが読めるように確認してください。

6 ちいさく かへ「ゃ」「ゅ」「ょ」

50ページ

10分 ことば 26 ページ

6 ちいさく かへ「ゃ」「ゅ」「ょ」

1 えに あう「っ」を えらんで () に ○ を かきまじりましょう。

2 えに あう「っ」を かきなおしましょう。

3 えに あう「っ」を かきまじりましょう。

おうちのかたへ
 拗音(小)を書く「ゃ」「ゅ」「ょ」を正しく使う練習をしてみてください。「っ」同様、拗音(小)の場合、マスの右上に書きます。正しい位置に書いてみるか、確認してあげましょう。「っ」「っ」「っ」を音読して、何が違うのかわかるようになります。「っ」「っ」「っ」を音読して、何が違うのかわかるようになります。
 1 「ゃ」「ゅ」「ょ」が入る位置を確認する問題です。「まっ」「まっ」「まっ」を音読して、何が違うのかわかるようになります。「ま」「ま」「ま」を音読して、何が違うのかわかるようになります。
 2 「ゃ」「ゅ」「ょ」を「っ」に書き換える問題です。「まっ」「まっ」「まっ」を音読して、何が違うのかわかるようになります。「ま」「ま」「ま」を音読して、何が違うのかわかるようになります。
 3 「ゃ」「ゅ」「ょ」を「っ」に書き換える問題です。「まっ」「まっ」「まっ」を音読して、何が違うのかわかるようになります。「ま」「ま」「ま」を音読して、何が違うのかわかるようになります。

3 「ん」「ふ」のつくことば①

53ページ

3 「ん」「ふ」のつくことば①

1 えに あつちうに、もじに 「ん」「ふ」をついてみましょう。

2 えに あつちうに、ことばをかきましょう。

「ん」「ふ」のつくことば

かご とんぼ ねずみ おんぶ まんぷく たんぼ

「ん」「ふ」のつくことば

なべ ぞう やぎ にじ めがね てんぷら

1 は、欠落している濁点、半濁点を補う問題です。お子さまが迷っていたら、まずは濁点、半濁点のない単語を音読するところから始め、「ん」「ふ」が変かなくなると声をかけて、きょうももう一回読んでみましょう。

2 は、濁点、半濁点がらくまれる言葉を書く問題です。絵に合った言葉を書きます。お子さまが正確な異なる発音(「ん」や「ふ」)をついて「ん」「ふ」を書いているとしても、濁点が正しく打てていないかを確認して、「○をつけてあげましょう。そのうえで、」ん」は2つだよ。あてはまる動物は何か?」など声をかけて、正しい答えに導いてあげましょう。

「ん」「ふ」

4 「ん」「ふ」のつくことば②

52ページ

4 「ん」「ふ」のつくことば②

1 「ん」「ふ」を ただしく なおして かきましょう。

2 えに あつちうに、「ん」をつけてことばを へんしん させましょう。

「ん」「ふ」のつくことば

がば らくだ てんぎ いせえび れいぞうこ

「ん」「ふ」のつくことば

かぎ さる まど くぎ ふた ぶた

前回に引き続き、濁点、半濁点の問題です。

1 でお子さまが迷っていたら、書かれている言葉とその発音をもう一回ながめましょう。そのときに、お子さまは書かれていることを読むのではなく、絵から想像して正しい答えを言っていますということがあります。その場合はおうちのかたが一字一字指し示して読んであげてください。

2 の問題は、濁点の有無や位置によって違う単語になるといって、濁音や半濁音の特徴を敏感するための問題です。まずは書かれている清音の言葉を読ませ、問題の絵を指し示して「これは何か?」と声をかけてあげましょう。

